

2023年2月28日

2022年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

課題研究

(論文題目)

シンガポールに在住する日本人母子が求める支援の実態調査
Needs for Prenatal and Postnatal Care among Japanese
Mothers and Babies in Singapore:A Questionnaire Survey

(21MW001)

氏名 石井 磨里子

論文要旨

目的

本研究の目的は、シンガポールに在住する母子への支援状況と、妊娠期から育児期の支援のニーズ、孤独の状況を明らかにすることである。

方法

研究デザインは、シンガポールで乳幼児の子育て経験がある邦人女性の母親を対象とした Google Form を用いた質問紙調査による量的研究であった。研究者が開設しているオンラインクラスサイト「ラゼゾン」のホームページ、Facebook、Instagram の WEB 上のツールと「ラゼゾン」の登録者に e-mail で、質問紙の依頼を行った。質問紙の内容は、主に女性の背景、女性の心理状況、妊娠期・産後・育児期における母子支援を受けた状況、母子支援への満足度とニーズで、構成された。収集されたデータのうち、すべての量的データは基本統計量を算出、自由記述で得られたデータは内容を分析した。

結果

研究協力者は、43 人であった。在住歴は 3 年以上が 74.7% と最も多く、年齢は 30 代が 62.8% と最も多く、子供の数は 1 人 48.8%、2 人 41.9%、3 人 9.3% の順に多く、末子の年齢は、3 歳以上 27.9% が最も多かった。妊娠期から育児期を通して、日本人医療者からの母子支援を受けており、ローカルケアを受けている人は少ない傾向であった。日本人医療者からの支援では、妊娠期は助産師への育児相談 24 人 (55.8%)、産後は授乳指導 32 人 (74.4%)、育児期は卒乳指導 15 人 (34.0%) が、最も多く受けられていた。受けなかった支援では、妊娠期は、赤ちゃんの生活についての説明 21 人 (48.8%)、産後はファーストエイド指導 29 人 (67.4%)、育児期もファーストエイド指導 25 人 (58.1%) であった。

孤独感尺度の合計平均値は 40.49 点であり、孤独感は強くなかったが、同年齢の子供の家族との交流を求めており、帰国後の不安を抱えていた。

結論

シンガポール在住邦人が求める母子支援を提供するため 1) 日本人助産師への相談にアクセスしやすいようにする、2) ファーストエイドクラスの開催方法の検討、3) 同年齢の子供や親との交流の機会を作る、4) 文化的配慮をした支援の実施が、示唆された。